

さる9月3日(20014年)から8日まで北京経由で故郷の瀋陽(中国遼寧省)に一時帰省しました。半年ぶりの中国ですが、相変わらず大変な活気があり、帰るたびにその凄まじい発展ぶりに驚くと同時に、故郷瀋陽の変化に喜びを覚えています。9月3日の夜に北京に到着すると、姉が車で空港まで迎えに来てくれました。姉の家に2泊したのち、9月5日の朝の便で瀋陽へ飛びました。はやる気持ちを抑え順調に瀋陽へたどり着いたときはいつもより嬉しさが増していました。

実は今回の帰省の一番大きな目的は、両親の新しい家を見ることです。都市再開発のため、再開発が終わったら戻れるという約束で、両親は3年前に20年間住み続けた家から立ち退きすることになり、一時的に家を借りて住んでいました。借家はそれまで住んでいた市の中心部より大分離れていて、持病を持つ両親が病院などに行くにはやや不便でしたが、やっと政府が約束した通りの新しい住宅ができて、住み慣れた元の場所に近いマンションに引っ越しすることになりました。

中国では居住者が内装工事を手配するのが一般的です。両親は5月から家の内装に奔走していました。内装に3か月が掛かり、その後新しい家具などを買い揃え、着々と引っ越しの準備をしていました。

私は瀋陽に着くと、簡単なお昼を済ませ、早速両親と一緒に新居を見に行きました。新居は瀋陽市中心部一遼寧省工業展覽館のすぐ近くにあり、ここは地下鉄2号線が通っていて、交通の便が非常によく、周りに大きな病院やスーパー、公園などがあります。瀋陽音楽学院、東北大学、魯迅美術学院などの大学からも非常に近いです。新居は31階建てのマンションが5棟も立ち並んでいるマンション群の中で一番道路に近いほうの29階にあります。立ち退きの前には7階建ての2階でした。29階からの眺めは開放的で風通しもよく、あまりの差にびっくりしました。家中がピカピカで新居の独特のにおいがしていまし

た。両親の嬉しそうな笑顔を見てホッと、やっと二人は安心した老後をこれから迎えられるなど感じました。

5日の夜は借家に戻り、次の朝は母と近くの朝市に行ってきました。瀋陽に帰るたびに私は必ず朝市に行っています。小さい時から休日になるとよく親についていって油条ヨウディアオという揚げパンや豆乳、新鮮な野菜や果物などを買いに行っていましたから朝市は私にとって思い出がたくさんある場所です。

半年ぶりの朝市は、二日後に年に一度の祝日一中秋節を控えていたこともあり、前回よりもさらに活気を呈していました。野菜、秋の味覚のさまざまな果物、鮮魚の品ぞろえは大変豊富で、作りたての熱々の豆腐や近郊の農家からの搾りたての牛乳もありました。母が大粒の葡萄やいきのいい蟹、中秋節には欠かせない月餅も買ってきました。つきたてのあたたかいお餅も食べてみたくて買いました(写真①)。

中秋節の前の朝市は行き交う人々の笑顔でにぎわっていました。やはりここに来ると落ち着く自分がありました。

次の日、新居のある工業展覽館(写真②)から地下鉄2号線に乗り、町の南の方にあるオリンピックのサッカー場の近くまで散策しました。地下鉄の乗客には若者が特に多かったです。地下鉄2号線は昨年12

月に運営し始めた路線で車内に荷物棚がないなど日本と違う部分もありますが黄色の椅子が非常にモダンで印象的でした。駅の構内も新しいし、表記も分かりやすく、そして何よりも目に飛び込んできたポスターに引かれてシャッターをたくさん押しました。

スローガンが良い市民になることを呼びかけています。瀋陽市をはじめ、東北地方を振興させようと、市民に東北振興への協力を呼びかけるスローガン掲示のをたくさん見かけました(写真③)。また、マナー向上などの呼び掛けのポスターなども多種類ありました(写真④)。

中秋節の3連休を前にして里帰りした人が、大学

## 我が故郷・瀋陽への想い

崔 貞(黒田真子)

生かとは不明でしたが、若者の一人が私の父に席を譲ってくれました。日本の電車であまり席を譲るシーンを見掛けません。日本と中国では文化の差があるのだと思いますが、市民のモラルが向上してお年寄りを尊重する風潮が戻ってきていると感じました。

オリンピックのサッカー場の近くの町も新しくなって、世界の有名ブランドを50店舗揃えているモールも新たにできていて綺麗でした。

今回の帰省で一番良かったと感じているのは故郷の著しい発展ぶりです。ハード面だけでなく、若い人の礼儀や伝統を重んじるといったソフト面での変化も見られて心の底から嬉しく思いました。これからも調和の取れた社会に向けて変身し続けてほしいと願い込めて次回の帰省を楽しみにしています。



写真1 朝市の餅つき



写真2 工業展覽館



写真3 東北振興への協力を呼びかけるスローガン「東北を再び振興させよう！瀋陽は再びリーダーシップを取ろう！」

1950年代の東北地域は産業技術が進んで経済発展のリーダーでしたが、1990年代の国営企業の改革と、沿岸地域の経済特区の発展著しい中で、東北地方は次第に経済的な遅れを取るようになりました。ここにきて中国政府が再び東北開発に力を入れ始めています。「瀋陽がリーダーシップを取ろう」というこの電子掲示板から瀋陽市政府の意気込みが見て取れます。



写真4 「徳を高め善を拡め、謙遜で礼儀正しい瀋陽市民になろう」

近年、中国は急速な経済発展に伴って精神的な支えを見失ってきています。市民のモラル向上を図ってポスターの宣伝に力を入れています。

崔貞(黒田真子)さんは、今年8月に入会以来、'わんりい'の活動に積極的に参加下さっている新会員です。「大妻女子大学文学部コミュニケーション学科講師、町田国際交流センター・外国人相談部会の会員として活躍しています。遼寧省瀋陽市出身。'わんりい'HPに崔貞さんの写真のページが加わりましたのでご訪問ください。

<http://wanli-san.com/pictur/ph-title.htm>